

メディカル・プロフェッショナルリズムⅡ

科目責任者 山内 かづ代

学年・学期 2学年・1,3学期

I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムに挙げられています。獨協医科大学では順次性を持った6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム (D-Mep)」に能動的に参加することで、医師としてのプロフェッショナルリズムを涵養します。D-Mepでは、各学年の単位認定要件として「良き医師となるには」をテーマとしたレポート課題を実施し、医療に対する考え方や年間を通じた学修の軌跡を学生自身が振り返り、次年度に向けた目標を立てながら学修を進めます。

D-MepⅡではまず7月に看護学生と“チーム医療合同演習”を行います。二律背反する事例を通じて「患者中心の医療とは何か?」「チーム医療はなぜ必要なのか?」を考えます。合同演習に先行する“リーダーシップと協働”“チーム医療論”で学んだことと共に、演習を通じて医療において協働する職種の役割、信頼関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力や協調性の大切さも効果的に学びます。翌年1月には“研究倫理”を学修します。すべての医療者は科学者としての側面を有し、常に科学的探究心を以て日々の診療に取り組み医学を追究しなければなりません。しかし、科学研究には様々な倫理問題が伴います。研究対象となるヒトや実験動物の生命を尊重し保護するための倫理規定にはどのようなものがあるか。ゲノム医療など新しい臨床研究にはどのような倫理的配慮が求められるか。研究の安全性はどのように保たれるべきか。研究データの品質管理とは何か。これらを学修することで、医学における研究倫理の重要性を身につけます。

II. 担当教員

<D-MepⅡ概論>

| | | |
|------|---------|---------|
| 主任教授 | 山内 かづ代 | 医学教育学 |
| 副学長 | 種 市 洋 | |
| 講 師 | 白 木 孝 之 | 肝・胆・膵外科 |

<チーム医療 (医看合同演習) >

| | | |
|--------------|---------|---------|
| 講 師 | 白 木 孝 之 | 肝・胆・膵外科 |
| 准教授 | 須 坂 洋 子 | 成人看護学 |
| ファシリテーター担当教員 | | |

<人を対象とする医学研究倫理>

| | | |
|-----|---------|------------------------|
| 講 師 | 上 杉 奈 々 | 医学教育学／URAセンター 研究倫理統括部門 |
|-----|---------|------------------------|

<動物実験の研究倫理>

| | | |
|-----|---------|----------|
| 教 授 | 市 瀬 広 武 | 実験動物センター |
|-----|---------|----------|

<研究データの品質管理術>

| | | |
|-----|---------|-------------|
| 准教授 | 井 上 健 一 | 先端医科学研究センター |
| 准教授 | 小 尾 正太郎 | 先端医科学研究センター |
| 講 師 | 岸 本 聡 子 | 先端医科学研究センター |

<研究の安全性>

主任教授 小林 久人 ゲノム医科学
 講師 小林(細金)枝里 ゲノム医科学

コーディネーター

准教授 上田 祐司 解剖学

Ⅲ. 一般学習目標

- (1) プロフェッショナルリズムの視点から、医学生に求められる態度について学ぶ。
- (2) コミュニケーションの視点から、人としての信頼や思いやりを形成する行動の基礎について学ぶ。
- (3) ヘルシンキ宣言と同意の取得について理解する。
- (4) 医学における動物実験の意義と倫理について理解する。
- (5) 研究データの品質管理について理解する。
- (6) 能動的学修能力、すなわち問題抽出能力と自己学修能力を培う。

Ⅳ. 学修の到達目標

- (1) 社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。
- (2) 品格と礼儀をもって、他者を適切に理解し、思いやりをもって接することができる。
- (3) 医療、研究における倫理の重要性を理解し、多様な価値を理解した上で自身の見解を形成し述べることができる。
- (4) 法令遵守ならびに人権を尊重し、医学生として正しく行動することができる。
- (5) 自他の役割を踏まえ協働する職種間で信頼関係を構築する重要性を理解し、互いの知識・技術を活かしてチーム内の役割を実践できる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|----|----|---|---|------------------------------|----------------|
| 1 | 7 | 13 | 月 | 2 | D-Mep概論Ⅱ ①: リーダーシップと協働 | 種市洋 山内かづ代 | 1 |
| 2 | | | | 3 | D-Mep概論Ⅱ ②: チーム医療論 | 白木孝之 | 1 |
| 3 | | | | 4 | チーム医療 (医看合同演習) | 白木孝之 須坂洋子 ファシリテーター担当教員 | 1 |
| 4 | | | 5 | 3 | | | |
| 5 | | | 6 | 5 | | | |
| 6 | 1 | 25 | 月 | 1 | 研究データの品質管理術 ①: 実験データの扱い方, ヒストグラムと正規分布Excel・SPSS演習 | 井上健一 小尾正太郎 岸本聡子 | 4 |
| 7 | | | 2 | 研究データの品質管理術 ②: ノンパラメトリックデータの群間比較, 3群以上の比較Excel・SPSS演習 | 4 | | |
| 8 | | | 3 | 研究データの品質管理術 ③: 2変量データの散布図による視覚化, 相関と回帰Excel・SPSS演習 | 4 | | |
| 9 | | | 4 | 動物実験の研究倫理 ①: 動物を扱うことの意義と責任 | 市瀬広武 | | 1 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|----|----|----|--|---------------------|----------------|
| 10 | 1 | 25 | 月 | 5 | 動物実験の研究倫理 ②：医学・生物学研究における動物実験の役割 | 市 瀬 広 武 | 1 |
| 11 | | | | 6 | 動物実験の研究倫理 ③：医学部教育で動物を扱う学生が知っておくべきことと、学生の責任 | | 1 |
| 12 | | 26 | 火 | 1 | 人を対象とする医学研究倫理 ①：ヘルシンキ宣言，ベルモントレポート，ヒトを対象とする生命科学・医学系研究に対する倫理指針 | 上 杉 奈 々 | 1 |
| 13 | | | | 2 | 人を対象とする医学研究倫理 ②：倫理審査委員会，インフォームドコンセント，被験者保護 | | 3 |
| 14 | | | | 3 | 人を対象とする医学研究倫理 ③：演習 | | 3 |
| 15 | | | | 4 | 研究の安全性 ①：バイオセーフティとバイオセキュリティの考え方，実験安全の基本 | 小 林 久 人 小林（細金）枝里 | 1 |
| 16 | | | | 5 | 研究の安全性 ②：化学物質を使った実験，遺伝子組換え，血液由来病原体対策 | | 1 |
| 17 | | | | 6 | 研究の安全性 ③：実験室関連感染とバイオハザードのリスク評価，リスク管理 | | 1 |
| 18 | | | | 7 | D-Mep概論II ③：良き医師となるには メデイカル・プロフェッショナルリズムⅡ総括 | | 山 内 かづ代 |

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

【単位認定要件1】

講義・演習に対応するeAPRIN（イー・エイプリン，Association for the promotion of Research Integrity）のクイズや代替教材課題を期日までに受講する。各単元の修了を単位取得の条件とする。

【単位認定要件2】

第18回（最終回：D-Mep概論Ⅱ ③）にて課す「良き医師となるには」のレポートの提出をもって単位取得要件とする。このレポートでは、この段階で自分自身が考える医師像とそれを達成するために必要な3年次に向けた自己の目標を設定し、ポートフォリオに記録するものとする。

【成績評価】

各授業の事前事後学習の平均点を素点(100点満点／小数点以下は切り捨て)とし、60点以上を合格とする。なお、各テーマにおいて2/3以上の出席がない場合は、当該テーマの成績については評価対象としない。具体的な評価方法は、科目責任者または担当者より説明するとともにLMSにて提示する。

【特筆すべきアンプロフェッショナルな態度への対応】

D-Mepにおいて「特筆すべきアンプロフェッショナルな態度」とは、以下の5点をいう。いずれかに該当する場合は、減点または単位認定を保留とする。

- 1) 講義・演習への無断遅刻（一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす。）
- 2) 講義・演習への無断欠席（一切認めない。）
- 3) 講義・演習に臨む姿勢が極端に消極的 又は 医師を目指す者として不適切と認められる場合
- 4) 「まとめと試験」等成績評価にかかる考査実施における不正行為（本学医学部試験及び成績評価に関する規程を準用する）
- 5) レポートにおける剽窃（盗用）行為（同上）

VII. 教科書・参考図書・AV資料

参考図書・参考文献については、以下のほか、授業時に適宜紹介する。

1. 大生定義, プロフェッショナリズム総論, 京府医大誌 120 (6), 395-402, 2011. URL <http://www.fkpu-m.ac.jp/k/jkpum/pdf/120/120-6/oobu.pdf>
2. eAPRIN (イー・エイプリン, Association for the promotion of Research Integrity) URL <https://edu.aprin.or.jp/login/index.php?lang=ja>

VIII. 質問への対応方法

各講義の担当教員に直接、あるいはコーディネーターを介してコンタクトし、事前にアポイントメントを取ること。対応時間は平日の9:00-17:00を基本とする。教員のメールアドレスは別途示す。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | |
|--|---|
| 医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を實踐できる | ◎ |
| 能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる | ◎ |
| 地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる | ○ |
| 国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる | |
| リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる | ◎ |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各基盤科目のフィードバックの方法については、講義時に担当教員より説明する。

単位認定要件となる「良き医師となるには」のレポート課題については、学生自身の学修と成長の記録としてポートフォリオに記録するので、卒業時まで各自で活用されたい。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習、事後学習については各担当教員より説明する。

XII. コアカリ記号・番号

PR：プロフェッショナリズム

PR-05：医の倫理

PR-05-01：医の倫理

PR-01：信頼

PR-01-01：誠実さ

PR-01-02：省察

PR-02：思いやり

PR-02-02：他者理解と自己理解

GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢

GE-01：全人的な視点とアプローチ

GE-01-03：患者中心の医療

IP：多職種連携能力

IP-01：連携の基盤

IP-01-01：患者中心の保健医療福祉

IP-01-02：職種間コミュニケーション

IP-02：協働実践

IP-02-04：他職種の理解

LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢

LL-01：生涯学習

LL-01-01：生涯学び続ける価値観を形成する

RE：科学的探求

RE-05：研究倫理

RE-05-01：適切な研究遂行

RE-05-02：対象者の保護